

# 真声会 京都支部報

第 38 号

2022年7月10日発行



## あらためて思う「不要不急」の大切さ

京都支部 支部長 寒川 正晴 (30期 Hr)

3年前、それまで当たり前だった人との交流がコロナ禍によって一変しました。そのころ音楽界ではコンサート開催をひかえざるを得なくなり、職業音楽家を始め音楽愛好家は行く先を失ってしまうかのような大きな落胆を覚えました。しかし、一方で人々は事態の打開を図るべく様々な知恵を集めてパフォーマンスを披露する場を提供するための模索を試み、Webによるライブ配信、リモートレッスンや合奏などの新たな発信が演奏現場や教育現場で取り組まれました。コロナ禍に入った頃「不要不急の外出は控えるよう」喚起されたことから「コンサート会場などに足を運ぶことは密を避け感染を抑えるため当然控えるべき行動＝スポーツ観戦、コンサートや演劇など多くの聴衆向けのパフォーマンスはそもそもコロナ禍では不要不急だ」というような空気感が生まれ、芸術や文化が非常事態の中で否定されかねない悲しさも感じました。今年に入りようやくコンサート会場に徐々に聴衆が戻り、同じ空間で音楽を共有できるようになり希望も見えてきました。

また、今起こっているロシアの暴君による軍事侵攻が、その無差別攻撃から多くの一般市民が命を奪われ、国際的に多くの国々を巻き込み、世界の政治・経済・軍事状況などに計り知れない影響を与えるなど、本当に心が痛みます。ひとたび戦争がはじまると「軍事には軍事を」と、多くの国々がウクライナへ軍事支援や武器提供をしたり、新たにNATO加盟を表明する国が生まれたり、さらなる事態の悪化となるのではないかと、戦争を止めるためになにができるのかと思うと同時に、「平和」であることこそが、芸術や文化・スポーツなど、自由な表現の場がどこのだれにも保障され、命を輝かせるために絶対に必要なのだと考えさせられます。

## 第32回 真声会京都支部 総会報告

2022年5月15日(日) 午後2時～ 於：ウイングス京都 2Fビデオシアター 出席者13名 委任状103通

1. 開会 司会 寒川 正晴支部長
2. 支部長挨拶
3. 議長選出 中島 貴子議長決定
4. 議事

(1) 2021年度 各委員会活動報告 (主な項目のみ記載)

【庶務】2021年4月4日 第1回役員会 出席者10名 総会案内等の発送作業  
20期山本和子氏ご遺族様へ弔電をお送りする

5月16日 第31回京都支部総会開催 京都商工会議所にて

6月7日 学部新卒業生、院修了生に京都支部入会案内を送付

6月20日 第2回役員会 ウイングス京都にて 出席者6名

8月22日 zoom会議を実施 参加者5名

2022年1月10日 第3回役員会 ウイングス京都にて 出席者8名

【広報】2021年6月11日 支部報第37号発行に向けて第1回編集会議 担当者自宅にて

7月10日 支部報第37号発行及び発送作業 ウイングス京都にて

10月10日 支部報第38号発行に向けて原稿執筆依頼を行う

2022年2月 支部報第38号発行に向けて原稿執筆依頼を行う

【企画】2021年7月10日 第37回プロムナードコンサートのチラシ・チケットを会員に向けて発送

8月下旬 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コンサートの中止を決定

9月下旬 次回コンサート開催日程の決定(2022年9月24日)

2022年2月上旬 第37回プロムナードコンサート出演者決定

(2) 2021年度 会計および会計監査報告 別項参照

(3) 2022年度 各委員会活動計画

【庶務】2022年4月3日 第32回総会案内送付・学部新卒、院修了生に京都支部入会案内を送付  
随時 印刷物の発注、役員会開始準備と記録、支部会員リストの管理

【広報】2022年7月中旬 支部報第38号発行及び発送予定

【企画】2022年9月24日 第37回プロムナードコンサート開催予定 於：アルティ

(4) 2022年度 会計予算案

(5) その他 **重要**・会則見直し：補則 第2条「なお、5年以上会費未納の場合は、退会とみなす」の条項につき、役員会で検討を重ねている内容につき提案があった。3年連続で会費未納の方がその後会費を納めてくださるケースがほとんどないことを鑑み、「会費を2年以上未納の場合は退会とみなす」(2年連続で未納の場合、3年目に再度の会費納入の案内後も入金がないと退会)と、会則を見直すこととなった。

・新役員紹介：乗原 日菜子さん(55期P)

以上、全て承認された。

5. 議長解任

6. 閉会

\* 本年は総会開催を検討する時期に、新型コロナウイルスの感染が拡大していたため、ゲスト講演を中止することといたしました。併せて懇親会もなくなりました。



真声会京都支部 2021 年度会計報告  
(2021.4.1~2022.3.31)

収入の部	支出の部
前年度繰越金	総会費 77,937
(うち定期預金 201,000)	会費 50,450
会費	通信費 84,717
448,000	事務費 0
(@3,000×4組)	印刷費 196,715
(@2,000×218名)	交際費 3,300
本部からの援助金	企画 19,266
200,000	7 (ブロムナードコンサート等、別途報告)
預金利息	支だし計 432,385
	次年度繰越金 1,387,752
	(うち定期預金 201,000)
収入計 1,820,137	合計 1,820,137

2021 年度「真声会京都支部」収支決算報告については、以上の通りです。

2022 年 4 月 3 日

会計 山崎 祥代 

会計監査 栗原 孝夫 

以上の報告に間違いのないことを認めます。

※ 2021 年 (令和3年) 度 真声会京都支部企画 会計報告 ※  
(2021.4.1~2022.3.31)

【第37回ブロムナードコンサート(2021/9/19) → 開催中止】

収 入	支 出
真声会京都支部より補助金 300,000	ホール使用料 77,450
コンサート参加料 24,000	印刷費 14,182
ホールより還付金 77,450	通信費 3,180
	事務費 814
	手数料 1,090
	参加料返金 24,000
合計 401,450	支だし計 120,716
	残 高 (支部会計に返金) 280,734
	合計 401,450

上記のとおり、2021 年度収支決算を報告致します。

2022 年 4 月 3 日

会計 山本有紀 

以上の報告に間違いのないことを認めます。

会計監査 栗原孝夫 

## 支部だより

### 滋賀支部より活動報告

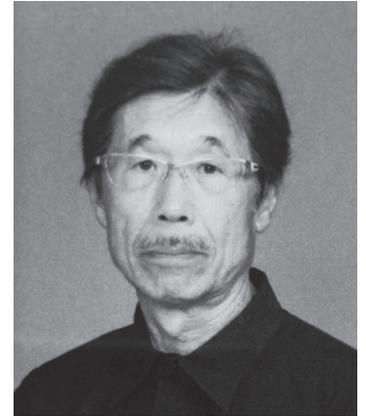
滋賀支部 支部長 杉中 博 (19期 Tp)

21世紀を揺るがすロシアのウクライナへの侵攻は、グローバル化し、つながりあった世界を「ベルリンの壁崩壊」以前の冷戦構造に、強権で引き戻す蛮行です。世界の枠組みが変わるかもしれませんが、音楽の世界は負けずに連帯していきたいものです。

さて、昨年11月の滋賀支部演奏会「湖のしらべ」は新会員の砂川恵さん (Pf)、岸上叶多さん (Bar)・大槻夏子さん (Pf伴奏)、西村菜月さん (Trb)・山口珠奈さん (Pf伴奏)と井出智子・悟ご夫妻、服部悦子・光永秀子ご姉妹のピアノデュオのプログラムでびわ湖ホール小ホールにて開催しました。恒例の最後の全員合奏では中安容子さん (Sop)、桑名しのぶさん (Vn)、小松文郎さん (Vla)、吉延佑里子さん (Fl)、杉本多佳子さん (Fg) にも加わっていただき、林直樹さん (Fg) 編曲による「東日本大震災復興応援メドレー」～ひまわり～花は咲く～明日へ～ふるさと～を演奏しました。

今年の3月11日で震災から11年目を迎えましたが、復興は未だ道半ば。原発に至っては廃炉行程のスケジュールも立てられない状況です。津波被害のご遺族や避難生活の続く方々に思いを寄せていくことは、今も大切なことと考えます。

今年の「湖のしらべ」は11月27日にびわ湖ホール小ホールで開催予定です。どんな企画で締めくくろうかと、今から思いを巡らせています。



## Intermezzo

### 「君が代」と「われら愛す」

蔵田 裕行 (3期 声)

2021年はコロナ危機の中オリンピックが強行開催された永く記憶に留められるべき年となった。日本は金メダル27個を獲得し「君が代」が27回登場することになった。実は私は「君が代」が嫌いである。嫌いというより歌ったことがない。「君が代」は五音音階からなる荘重な曲で式典に相応しい音楽であることは認める。然し音楽家としては旋律と歌詞の乖離状態に違和感がある。

護王神社にさざれ石が置かれている。ちいさな石が集まって大きな塊となった石である。

さざれは接頭語で動詞ではないので切り離すことは出来ないのだが、歌はさざれと石は完全に切り離されている。「石の」はフレーズとしては挿入句である。普通の人にはこれを一息で歌うのは困難である。皮肉って考えれば日本が粉々に砕けると解釈出来なくもない。君が代については民が世とすべき等様々な意見があったが、結局国歌として定着してしまった。

実は終戦後に寿屋 (サントリー) の提案で新国民歌を募集する試みがあって歌詞5万通、作曲3千通の応募があり最後に選ばれたのが「われら愛す」である。



素晴らしい歌である。私は今は廃れかけたこの名曲を再び広めるために関係する団体で取り上げている。大阪ロータリーでは節目の例会毎に歌う事とし、京都混声合唱団では定演のアンコール曲として歌うことにしていた。一度朝日新聞に「われら愛す」の事を投稿した際、『憲法の心を歌った幻の国歌「われら愛す』』という本を出版された生井弘明さんからお手紙を頂き、以来親交が続いている。京都のかがわ出版から出版されているので興味のある方は是非取り寄せてお読みください。ちなみに歌詞を1番だけご紹介しておきます。2番、3番も素敵です。

われら愛す、胸迫る熱き思いに、この国をわれら愛す  
 しらぬ火都筑のうみべ みすずかる信濃のやまべ  
 われら愛す 涙あふれて  
 この国の空の青さよ この国の水の青さよ

実は私は静と動が見事な対比をなすこの2曲が時と場合によって使い分けられ、又は併用されるようになればと秘かに願っている。

## 海外だより

### ライプツィヒより

三上 翼 (62期 P)

ドイツ東部ライプツィヒでピアノを勉強しております、三上翼です。2017年に京芸を卒業してから既に5年の月日が流れていることに驚きを隠せません。京芸時代はよく「食堂に住んでる」と言われていました。リブレで買ったお菓子をつまみながら、食堂で友達とたわいもない会話で笑って過ごしていたら、いつの間にか卒業していました(笑)今でもたまに食堂が恋しくなります。来年は新しい京芸に生まれ変わるということで、少し寂しいような気もしますが、パワーアップしていく母校を陰ながら応援し続けようと思います!

僕は京芸を卒業した年にザルツブルクのモーツァルテウム大学に留学し、2年で修士を終えた後、ライプツィヒ音楽演劇大学の国家演奏家資格課程へ進みました。しかし、その矢先の2020年、コロナが瞬く間に世界を侵食しました。コンサートはなくなり、学校も閉鎖され、目まぐるしく変わる規制の中、じっと一人、部屋に閉じこもる日々が続きました。お家のすぐ近くの広場で大規模なデモが行われて(日本のニュースに取り上げられていました)、銃声・爆発音が鳴り響き、部屋の窓からは警察沙汰の乱闘を目撃したりもしました。

先の見えない将来のことや音楽について考えて苦しくなる時、よく鷺田清一前学長の卒業式での素晴らしい式辞をなぞります。そのお言葉に何度救われてきたことでしょうか…。そして何より友達と談笑する時間が僕の心を充電してくれました。節分の日リモート飲み会をして、パソコンの画面に向かって豆まきしたことは忘れられません。

明日がどうなるかなんて分からないけど、ピアノを弾き続けていたらきっと道がひらけてゆくと僕は信じています。そして、当たり前のような日常への有り難みや、ちょっとした人の優しさにも気付ける心を大切に過ごしていきたいです。“同じ時代を生きる人々に希望の光を絶やさぬよう”に、音楽への愛を持って、これからも精進していきます。暑さ厳しき折ではございますが、皆様どうか健康第一で、素敵な京都の夏をお過ごしください!



## ♪ ♪ ♫ コンチェルト ♪ ♫ ♪

## 音楽と前半生に思う雑感

橋本 尚 (35期 P)

美しくも含蓄に満ちた音色、芳醇にして艶やかに編み込まれた旋律や和声たちが「我が身を貫く宇宙の法理に歪みなく則ろうとする自発の意思」と向き合い、手を取り合う時、魅力ある構築を備えた音楽作品となろう。

次元の違う話だが、人格の侮蔑と尊厳の矮小が目論まれた別称の受容を不本意にも強要され続ける事が、如何に自尊の愚弄を被る精神的暴力の被害であるか、その被害者以外には到底感受不能であろう。芸能人などが進んで自虐を売りにするのは別の話。そして、上記のような呼称の発案者の根性には、下水よりも醜く濁る精神的汚泥が見える。全く唾棄すべき害毒である。還著於本人（げんじゃくおほんにん）と悟るべし。

過去に幾十回、交通機関で不道德な輩に直接注意した経験を持つが、人の善性を凌辱する不実も揶揄も大嫌いだ。優越の示威に誠実への嘲笑と睥睨を含むしたり顔には、吐気すら覚える。音楽的靈感とは対極と痛感する。

淡い記憶の中の幼少の日、行楽地にて姉やその友達がジュースを買ってもらう横で僕は土産物のペンダントをねだり、首にかけて見入っていた。今日、木漏れ日に葉の一枚一枚が反射し宝石の如く煌めく様子に、時間の許す限り見とれてしまうのも、生来の性だ。

大学院修了後は大いに伸び悩みながらも、京都フランス歌曲協会に長年在籍しつつ気儘に自分の音楽人生を綴ってきた。接客を伴う演奏や各種合唱団の伴奏・編曲、シャンソンなどのライブ伴奏、重なる経験が宝である。

上京区にあるケーキの名店《童夢》オーナー本川恵子さんの歌曲作品に出会って数年、合唱編曲とCD制作に関わった。お店でのコンサートは今後も続ける。

7年前にはシャンソン5曲の女声合唱編曲楽譜を自費出版で上梓。いい挑戦となった。

40歳からジャズを学び続け、遅まきながら祇園などでの出演にも乗り出し始めている。



## 京都支部 役員募集 ～私たちと一緒に京都支部を運営しませんか？～

会員の皆さん、私たちと一緒に京都支部を運営してみませんか？

真声会京都支部は数名の支部会員によりボランティアで運営されています。これまで役員の欠員補充は、役員からの声掛け、あるいは選挙によって選出されてきましたが、選挙には多くの費用もかかるため、全体に広く応募を呼びかけさせていただくことに致しました。真声会京都支部の発足は1988年。34年間を繋いできたのは紛れもない同窓の先人たちです。できることならばこれからも絶やさず繋げていきたいと考えています。

専攻、年代の違う卒業生との交流は思いの外楽しいものです！そしてあなたの持っている力を少しお役立ただけませんか？年に数回、京都市内（四条烏丸付近）で役員会を行います。今は日曜日の午後が多いです。交通費のお支払いはございます（但し、近畿圏内、普通乗車運賃）。また、それぞれにいずれかの役割が割り当てられることになります（会計監査、広報、等）。ご不明な点がございましたら [kyou.shinsei@gmail.com](mailto:kyou.shinsei@gmail.com) までお尋ねください。或いはホームページから直接申し込みもできます。

<http://shinseikaikyotogo.com>

皆様からの積極的なお申し込みをお待ちしております！



## 真声会京都支部 住所変更

山下 由香 (26期 P)  
〒601-8212 京都市南区久世上久世町122-3  
堀内様方

片山 美穂 (61期 声)  
〒156-0041 東京都世田谷区大原1-36-4  
Olive House

谷口 まり子 (48期 P)  
〒612-8494 京都市伏見区久我東町5-81

## 近況・雑感

ご無沙汰しております。元気にしております。

吉富 眞弓 (5期 P)

週一回デイサービスで7種類の機械を操っています。楽器は向いの理想的な先生の家に置かせて頂き楽しんでます。自分の足で歩いている84才です。

林 千賀子 (5期 打)

体調不良のため自由に外出は出来なくなりましたが、真声会の益々の御発展を祈っております。

牛丸 玲子 (7期 声)

37才から続いている柏の女声コーラス、47年目に入りました。80代以上が11人になりました。継続は力なりといいますが、私達には宝です。落葉松を全曲歌う等楽しんでます。

坪井 フミ子 (8期 声)

毎日家の玄関を出て、新校舎建設を眺めています。

朴 実 (12期 作)

コロナの影響でコーラス指導も中断していましたが、4月から一部再開しております。

光野 文代 (14期 声)

私、転げて左肩の腱が切れました。3月に手術し4月からリハビリに通っています。9月までリハビリを頑張らないと再断裂すると医者に言われビビっています。しばらくはマリンパ弾けそうにありません。ショック!!

佐々木 百合子 (18期 打)

今のところ感染せず元気にしておりますが、早く安心したいです。

早田 彩子 (18期 P)

69歳だけど…SNSを利用して、演奏力がキープ出来るようにがんばってます!「音楽のおもちゃ箱」YouTubeチャンネル登録お願いしますネ!

立松 佐喜子 (20期 P)

総会の日には生憎自身のコンサートと重なり出席できません。皆様に宜しくお伝えください。

登 博美 (20期 Tb)

コロナ禍になり、人前で演奏する機会はありませんが、ピアノのレッスンは続けています。

内藤 泰子 (20期 P)

あいにく、総会の日には仕事が入ってしまい伺うことができません。どうぞ皆様によりよくお伝えください。

新実 悦子 (24期 P)

コロナ禍3年目、この世界情勢の中「音楽」というものについて深く考えさせられています。

峰谷 葉子 (29期 P)

今年は無事にプロムナードコンサートが開催されますように。又よろしくお願い致します。

武田 佳美 (34期 P)

一日も早く世の中の状況が落ち着くことを願うばかりの毎日です…。

城甲 実子 (36期 Vc)

スイスでの暮らしもう25年になろうとしています。チェンバロを学ぶため留学し、今は教会オルガニストとして仕事を任せられ、忙しくしております。数々の礼拝で色んな素晴らしいソリストと共演でき、音楽の喜びを分かち合えて幸せに思っております。

Boetschi 磨子 (38期 P)

スイス チューリッヒで暮らしています。

加藤 苑絵 (42期 声)

昨年6月に、自宅近くのレンタルスペースで、長年の夢だった音楽教室を開くことができました。お子さんへのリトミックを指導していますが、今後シニア向けへ歌やピアノのコースも設置します。

太田 千暁 (50期 声)

現在Paris在住。エコールノルマル音楽院在籍です。

松下 桜子 (62期 P)

京都支部  
入会のお誘いについて

真声会京都支部では新卒生に拘わらず、京都支部に未入会の既卒生の皆様にもぜひご入会いただきたく願っています。また京都府外在住の方のご入会も受け付けております。京都支部活動をご理解いただき、会員の皆様でお知り合いの方にご入会をお誘いいたしますようご協力をお願いいたします。年会費は2000円です。ご入会は支部HPからも承ります。 <http://shinseikaikyotogo.com>



## 真声会京都支部ホームページのお知らせ

京都支部では会員の皆様により多くの情報を提供できるようホームページを設けております。住所変更、後援申請、年に一回定期開催中のプロムナードコンサート情報、その他会員に向けた特別講座など掲載しております。京都支部へのご意見、お問い合わせなどもできるようになっておりますので、是非ご活用ください。

真声会京都支部ホームページ

<http://shinseikaikyotogo.com>

## － 会計からのお願い －

日ごろの真声会京都支部へのご協力で御礼申し上げます。

会員の皆様には、2022年4月に今年度の会費納入のお願いをいたしました。まだ納入されていない方は、4月に送付いたしました郵便振替払込取扱票に、卒業期・氏名・住所・電話番号をご記入の上、**会費納入をお願いいたします。**本部会費と支部会費は別ですので、ご了承ください。

## － 会計からの大切なお知らせ －

総会報告のページにあります通り、この度の総会で会則の一部が改正されました。今後は「**会費を2年以上未納の場合は退会**」とみなします。該当される方は、2023年3月末をもって自然退会となりますので、それまでに会費を納入くださいますようお願いいたします。

## － 後援申請について －

真声会京都支部の後援を申請される場合は、真声会京都支部会員名簿の最後のページ「真声会京都支部後援規定」をよくお読みの上、演奏会等のチラシ作成の1か月前までに下記へ送付してください。またホームページからでも申請は可能です。尚、申請後5日以内に何らかの回答がない場合は、お手数ですが会計担当までご連絡ください。

〈会費に関するお問い合わせ・後援申請先〉

〒612-0057 京都市伏見区桃山長岡越中東町98-4

Fax : 075 (603) 6502

Email : kyotoshibukaikei@yahoo.co.jp

会計 山崎 祥代

## 真声会京都支部会員による演奏会案内

〔京都教育大学管弦楽団OBオーケストラ 第19回演奏会〕

日時：2022年6月19日（日）14：00 開演

会場：京都コンサートホール 大ホール

入場料：1,500円（学生1,000円）

プログラム：フォーレ「マスクとベルガマスク」組曲  
プーランク ピアノ協奏曲  
メンデルスゾーン 交響曲第4番 イ長調  
「イタリア」

出演者：山口 博明（41期 P） 寒川 正晴（30期 Hr）  
他

〔An Evening of Art Songs～歌曲の夕べ〕

（ソフレの会主催）

日時：2022年8月30日（火）19：00 開演予定

会場：伊丹アイフォニックホール 大ホール

入場料：2,000円

プログラム：H. ヴォルフ 秘めた愛、魔法の夜 他

出演者：藤美千代（43期声） 他

〔公財〕青山音楽財団助成公演

〔藤美千代 ソプラノリサイタル

～受け継ぐ心、語る歌声 其の三～〕

日時：2022年12月11日（日）14：00 開演

会場：青山音楽記念館 バロックザール

入場料：2,500円（予定）

プログラム：シューマン 忍従の花

ブラームス 私のまどろみはますます浅く

小林秀雄 蕎麦の花 他

出演者：藤美千代（43期声） 他

〔コンサートシリーズ『なぎらゆみこに おつきあいください。』vol. 1

～クラリネット・ヴィオラ・ピアノのための三重奏～〕

日時：2022年12月11日（日）14：30 開演

会場：遠藤剛熙美術館（大宮駅より徒歩7分）

入場料：2,000円（大学生以下1,000円）

プログラム：シューマン おとぎ話 Op.132

ブルッフ 8つの小品 Op.83より 他

（都合により変更の場合はご了承ください）

出演者：柳樂 由美子（38期 Cl） 他

〔設立30周年記念コンサート 第2回フランス歌曲の珠玉～グノー、マスネ、ラロ、ドリーブ、ビゼー、シャブリエ、アーン～〕（京都フランス歌曲協会主催）

日時：2022年12月24日（土）14：00 開演

会場：京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

入場料：未定

プログラム：シャブリエ 小さなアヒルのヴィラネル、  
幸福の鳥、ありったけの花 他

出演者：中島 貴子（22期声） 他

## 編集 後記

先日、テレビで紹介されていた建仁寺塔頭霊源院に行きました。ちょうど額紫陽花に似た「甘茶」という花が満開の時期でした。お寺の中は何百年も前の古い仏像、江戸時代から受け継がれてきたお庭や由緒ある茶道具などと共に、令和の世になってから作られたお庭、絵画、まだこれから完成を待つ竜の天井画が趣味良く混在していました。古いものと新しいものが渾然一体となっているその空間の調和に魅了されました。

来年の移転を控える京芸の今まで連面と受け継がれてきた伝統は、これから紡がれる未来と調和し、若い世代が新しい芸術の世界を切り開いていくことでしょう。このお寺への訪問は、そんなことにふと思いを馳せる瞬間になりました。(F)